

第5期酒田市障がい者福祉計画・第1期酒田市障がい児福祉計画に係る  
令和2年度障がい福祉サービスの利用実績について

第5期酒田市障がい者福祉計画・第1期酒田市障がい児福祉計画は、平成30年度から令和2年度までの期間となりますが、主な福祉サービスの利用状況については、次のとおりです。

○居宅介護

利用者が増加しているのは、精神障がい者の利用が増えているからと捉えている。身体障がい者の利用は減少傾向だが、精神障がい者の利用は増えている。精神障がい者の一人あたりの利用回数は身体障がい者の一人あたりの利用回数より少ないことから、利用延時間としては減少していると捉えている。

○同行援護

令和2年度は利用者は減少しており、コロナ禍により行動を控える方がいたと捉えている。コロナ禍による行動制限が落ち着けば、利用者も増加すると見込まれる。

○生活介護

平成28・29年度が利用延べ回数のピークとみられる。利用者については、在宅の方が増えているが、施設入所者は若干減少していると捉えている。利用施設の増加については、市外の施設の利用が増えたことが要因の一つにある。

○自立訓練

サービスが一定程度周知されていて、新規の利用者が年々減少している（標準利用期間あり）。

○就労移行支援

新規の利用者が年々減少している（標準利用期間あり）。事業所が減っており、利用できる事業所が少ないのが課題である。

○就労継続支援A型

市内にA型事業所が1箇所あったが、9月末日にA型事業所を閉所することとなった。福祉的就労を検討するうえで、市内でA型事業所を選択できないという状況である。今後、新規事業者の動向等、注視してまいりたい。

○就労継続支援B型

利用できる事業所は増えていて選択しやすい状況にあるが、管内の就労B型事業所の工賃が低いのが課題である。市外の事業所の利用も増えている。

○就労定着支援

事業所は市内に1箇所、隣町に1箇所ある。一般企業に就職しても、障がいの特性などにより、すぐにやめてしまうという方がいる。就職がゴールでなく、長く就労を続けることが大切で、今後もこのサービスは利用が増えていくと見込まれる。

○短期入所（ショートステイ）

受入施設に増減はないが、令和2年度の減少はコロナによる施設側の受け入れ制限と利用者の利用自粛が影響している。コロナが落ち着けば、利用は増加に転じると見込まれる。通常の利用のほかに、緊急時の受け入れ先としての居場所の確保が検討課題である。

○共同生活援助（グループホーム）

入居施設の整備が進めば、今後も入居者数は増加していくものと見込まれる。市外の入居者もいる。

○施設入所

施設入所から地域生活（グループホーム等）への移行が計画の目標に掲げているが、現実的には難しい。入所者が亡くなったり介護施設へ入所するなどで一時的に減少するが、入所待ちの方がいる状況である。全体的には、緩やかに減少している。

○計画相談・障がい児相談

利用者の増はモニタリングの回数を増やしたりと、相談支援の充実によるものと捉えている。計画相談の利用施設の増加は市外の事業所の利用者が増えたことによる。

○放課後等デイサービス

利用人数、日数とも前年度と同じくらいであるが、今後も増加していくものと見込まれる。医療的ケアの対応できる事業所が市内に1箇所であり、利用者（保護者）のニーズに対応できるか課題である。